

文楽

【主催】文楽協会 【後援】文化庁

昼の部

団子売

心中天網島

天満紙屋内の段

大和屋の段

道行名残りの橋づくし

夜の部

絵本太功記

夕顔棚の段

尼ヶ崎の段

日高川入相花王

渡し場の段

写真：吉本信二



芸術文化振興基金助成事業

平成28年 2月27日(土) 開演 昼の部 13:30 (12:45開場) 夜の部 18:00 (17:15開場)

米子市公会堂

【入場料】

一等席／指定席：4,500円(4,000円)
二等席／指定席：3,500円(3,000円)
三等席／自由席：1,500円
大学生以下／二等席・三等席のみ：1,500円

※()は財団友の会プレミアム会員・Feel友の会会員価格。
※就学前のお子様の入場はご遠慮ください。
※障がい者手帳をお持ちの方、及び介添え者1名様まで、会員価格に割引いたします。
※託児サービス 無料・要予約(定員あり) 申込み切：2月13日(土)
満1歳～小学校2年生までのお子様に限ります。お申込み先：アルテプラザ

■一般発売 11月7日(土)10:00～

プレイガイド

アルテプラザ(財団西部事務所／米子天満屋4階)、米子市公会堂、米子市文化ホール、倉吉未来中心、とりぎん文化会館、島根県民会館、ローソン(Lコード：63442)

お問い合わせ

●アルテプラザ (公財)鳥取県文化振興財団西部事務所 TEL(0859)38-5127
●米子市公会堂 TEL(0859)22-3236

主催：(公財)鳥取県文化振興財団、(一財)米子市文化財団、BSS山陰放送

特別後援：新日本新聞社 特別協賛：鳥取銀行
後援：鳥取県、鳥取県教育委員会、米子市、米子市教育委員会、境港市、境港市教育委員会、大山町、大山町教育委員会、南部町、南部町教育委員会、伯耆町、伯耆町教育委員会、日南町、日南町教育委員会、日野町、日野町教育委員会、江府町、江府町教育委員会、日吉津村、日吉津村教育委員会

ARTS FOR EVERYONE

アーツ・フォー・エveryone

公演情報



昼の部

團子壳

白造
桐吉
竹田
紋玉
臣佳

天満紙屋内

吉田玉女改め

紙屋治兵衛	女房おさん	倅勘太郎	丁稚三五郎	下女お玉
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田
玉和	玉和	玉和	玉和	玉和
男生	彦彦	翔翔	次次	次次

紀の国屋下女子
紙屋治兵衛

吉田玉男
吉田玉譽

(人形役割)

紙屋治兵衛
紀の国屋小春
吉田勘彌
吉田玉男
(人形役割)

望月太明藏社中

解説
(あらすじを中心に)

豐竹咲寿大夫

〔人形役割〕

母	妻	嫁
も	さい	よめ
つ		
き	操	菊
吉	吉	吉
田	田	田
玉	和	文
也	生	昇

眞族 柴久吉	武智 光秀	武智 十次郎	加藤 正清
吉田 文	吉田 玉	吉田 幸	吉田 簀
司	男	助	次

〔人形役割〕

清 船
姬 頭
吉 吉
田 田
簀 勘
一
郎 市

望月太明藏社中

團子壳

掛け声にもぎやかに杵で団子をつく、仲のよい夫婦の団子売。しつとりとした踊りに軽快な踊り…。清元の『玉兎月景勝』(1820)をもとにした景事です。

心中天網島

享保5年(1720)12月、竹本座で初演。10月に起きた大坂の綱島での心中を題材とした近松門左衛門の世話物です。上中下三巻のうち、中之巻「天満紙屋内」、下之巻「大和屋」「道行名残りの橋づくし」をご覧いただきます。

紙屋治兵衛は、妻子がありながら、遊女小春と心中を約束。ところが小春が別れたがつていと知り、だまされたかと激怒して絶縁。その後すぐに小春は治兵衛のライバル太兵衛に請け出されることに。太兵衛に身請けされるなら自害すると言つていたものを、こんな不実な女に未練はない。治兵衛がそう言い切るや、小春が死ぬゝ助けて！と慌て出す妻のおさん。実は、小春が、命以上に大切に思ひながらも治兵衛との別れを決断したのは、思い切れないところを思い切り、夫の命を助けてほしいと手紙で訴えたおさんの心を受けとめてのことだったのです。それほど誠実な小春が太兵衛を嫌つて自害するのは確実。小春を死なせることはできない——金や質入する衣類をかき集め、夫に身請けを勧めるおさん。そこへ訪れたのは、治兵衛との離縁を望むおさんの父。おさんが無理やり実家へ連れ戻されたその夜、治兵衛は大和屋で小春と会い、網島の大長寺で心中……。

正妻である商家の女房と愛人である遊女が、本来相容れない立場を超えて、人を受する気持ちに変わりのない女性同士として、互いの心情を理解し、身を犠牲にしてもまでも誠意を尽くすという、近松ならではの物語です。「女房の懷には鬼が住むか蛇が住むか」と夫に顧みられない辛さを訴え、小春を身請けした後の立場を夫に問われて、「子供の乳母か、飯炊きか」と泣き崩れるおさんの姿が胸に迫ります。

繪本太功記

1582年 本能寺において織田信長を滅ぼし、わずか十日ほどで羽柴秀吉に敗北、命を落とした明智光秀。読本『絵本太閤記』の大ヒットを受け、逆臣とされる光秀を苦悩する忠臣として近松柳井かが合作し、寛政11年(1799)に道頓堀若太夫芝居で初演、発端に十三段が続く時代物です。

暴虐非道な主君尾田春長を本能寺で滅ぼした武智光秀。暴君から天下万民を救うためでしたが、主殺しを断じて許せない悪と見る母のさつきは、心の汚れた不孝者とは一緒にいたくないと、息子のもとを去つて尼ヶ崎へ。一方、備中で敵を攻めていた真柴久吉は光秀の謀反を知るや、すぐに都へ向けて進軍、途中、尼ヶ崎の近くで光秀勢との合戦に。この戦が初陣となる光秀の息子十次郎も討ち死を覚悟して祖母を訪ね、許嫁の初菊と祝言の盃を交わし、出陣しました。

その後、宿を乞うた旅の僧がさつきの勧めで風呂へ。それを竹藪から窺つていた光秀は、この僧こそ久吉と見抜き、外から竹槍で風呂場を一突き。ところが、中から聞こえたのは母の悲鳴。僧の正体も光秀の魂胆をも察していたさつきは、主殺しの罪深さを感じ知らせるために、わざと息子の手にかかったのだとした。そこへ味方の敗北を知らせたのは、瀕死の十次郎。一夜も添わずに夫を失う初菊の悲嘆。母殺しを妻に非難されようと決して信念の揺るがなかった光秀も、さすがに堪えられず慟哭。久吉は日を変えて天王山で勝負することに…。

母にも妻にも理解されない孤独、家族を破滅させた苦惱。兵庫・尼崎を舞台として光秀とその家族の悲劇を豪快に描いた、全篇のクライマックス、十段目をお届けいたします。

日高川入相花王

和歌山に伝わる安珍清姫の物語を題材とした並木宗輔ほか合作の五段の時代物『道成寺』(現在蛇鱗)〔1744?・豊竹座〕の四段目から、清姫が安珍を追って日高川を渡る場を改作。現行の外題は別の浄瑠璃(1759・竹本座)のものです。

女を連れて道成寺へ向かった安珍を追う清姫。渡し守に拒まれて川を渡れず、恋人を慕って泣き伏していた姫が、やがて恋人に裏切られた憎しみから大蛇となり、安珍を取り殺そうと激流を泳いで行く。人形の激しい動き、三味線の力強さに圧倒される人気演目です。

◎字幕表示がごさいいます（二部字幕表示を実施しない会場があります。また、席によっては字幕が見えにくい場合も）